

愛媛大学 整形外科専門研修プログラム

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 愛媛大学整形外科専門研修後の成果
3. 愛媛大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ・ 専門知識の習得計画
 - ・ 専門技能の習得計画
 - ・ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
 - ・ プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ・ リサーチマインドの養成計画
 - ・ 学術活動における研修計画
 - ・ コアコンピテンシーの研修計画
 - ・ 地域医療に関する研修計画
 - ・ サブスペシャルティ領域との連続性について
 - 4.3 研修およびプログラムの評価計画
 - ・ 専攻医の評価時期と方法
 - ・ 専門研修プログラム管理委員会の運用計画
 - ・ プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画
 - ・ 専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能
 - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

2. 愛媛大学整形外科専門研修後の成果

愛媛大学整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるよう幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシー（医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力、知識、スキル、行動の組み合わせ）も習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること。
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。

3. 愛媛大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

愛媛大学整形外科専門研修プログラムは到達目標を「全ての整形外科分野におけるスタンダードな診療能力の獲得」としています。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえた我国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。現在、愛媛大学整形外科には、脊椎、股関節、膝関節・スポーツ医学、腫瘍、手外科、足の外科、リハビリテーションなどの診療・研究グルー

プがあります。連携施設は、地域医療の救急の中核を担う病院から、脊椎・人工関節などの慢性疾患主に扱う病院やリハビリテーションを中心とする病院などそれぞれに特色をもった 15 におよぶ大学、施設、病院があり、機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。

愛媛大学整形外科は、創設から約 40 年が経過し、整形外科全領域にわたる研究・教育・診療体制が整備されています。また、大学内の基礎系の研究室や愛媛大学理学部や工学部には日本の最先端科学技術を有する研究グループが多数あり、それらの施設と連携して様々な分野での臨床・研究を進めています。

4. 研修方法

参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP）

<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

4.1 基本方針：

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、愛媛大学附属病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の 3 月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢

者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は 1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の 10 の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 ヶ月間で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。

① 専門知識・技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識と技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識・技能の習得状況を 6 ヶ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、それぞれの研修施設からの報告に基づいて、知識・技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない知識や技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

また、専攻医は 1 年目 4 月上旬の専門研修プログラム管理委員会主催の講習会に参加し、3 年 9 ヶ月間のプログラムの全容と専門医試験についての説明を受けます。

② 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を愛媛大学附属病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

③ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。また、専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

④ リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自らの症例を通じた研究した成果を発表する研究会「愛媛県整形外科専攻医研究発表会（仮名称）」を毎年 1 回開催します。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑤ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医 1 人あたりの学会発表、論文等）
専攻医が学会発表年 1 回以上、また論文執筆を年 1 本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年 1 回集計し、面接時に指導・助言します。

⑥ コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。

愛媛大学附属病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑦ 地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群は愛媛県指定医師不足地域中核病院を含みます。すべての専攻医は愛媛県指定医師不足地域中核病院に3ヵ月以上勤務します。地域内での活動として、研修期間内に1回以上、該当地域の運動器検診に参加します。また、愛媛大学病院は他県にある連携施設とも長年にわたって人事交流があります。本プログラムの中心は愛媛県内の病院ですが、他の地域における整形外科診療や病診連携を経験することを目的に、他県での研修も選択できるようになっています。

⑧ サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医関連のサブスペシャリティ領域として、脊椎脊髄病専門医、リウマチ専門医、手外科専門医があります。本プログラムの愛媛大学附属病院および連携施設にはこれらサブスペシャリティ領域の研修施設が複数施設ずつ含まれています。

将来これらのサブスペシャリティ領域専門医取得を希望する専攻医については、整形外科専門医研修中にサブスペシャリティ領域の指導医による教育を「流動」単位の範囲内で行えるようにプログラムを調整し、整形外科専門医取得後、速やかにサブスペシャリティ領域専門教育へと移行できるように配慮いたします。

⑨ 専門教育中の大学院在籍について

愛媛大学大学院の在籍期間が専攻医プログラム在籍期間に重なった場合については、臨床研究を中心とする大学院プログラムにおいて、専攻医として経験すべき症例が十分に経験できる状況が保証される場合においては、専攻医期間の一部が大学院在籍期間と重なっても問題ありません。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

① 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヵ月に1回行い、(9月末および3月末) 専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた愛媛大学附属病院および各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

愛媛大学大学院医学系研究科整形外科学教室に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。

年2回の定期委員会を開催します。

10月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。

必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、整形外科専門医教育に関するホームページ(<http://www.m.ehime-u.ac.jp/school/orthopedic/special/>)上に公開いたします。

③指導医の教育能力を高めるための実践的方法の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料12「整形外科指導医マニュアル(日本整形外科学会ホームページ参照)」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。また、本プログラムの指導医は厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ積極的に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学あるいは診療実績のない大学院の在学期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- ③臨床医として十分な適性が備わっていること
- ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
- ⑤ 1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 10 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

愛媛大学附属病院では整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。愛媛県の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

専門研修施設群 専門研修指導医 一覧

施設名	指導医名	指導分野 1	指導分野 2	指導分野 3
愛媛大学附属病院	三浦裕正	統括責任者		
	間島直彦	c	e	f
	今井浩	b	c	e
	森野忠夫	a	f	i
	木谷彰岐	j	f	e
	日野和典	c	d	g
	渡邊誠治	c	d	g
	鴻上 繁	e	f	i
	藤渕剛次	b	f	j
	宮脇城二	c	d	f
	日野雅之	a	d	f
	清松悠	b	d	g
愛媛県立中央病院	椿崇仁	b	c	f
	飯本誠治	a	d	g
	森実圭	b	g	i
	山岡慎太郎	a	d	e
済生会松山病院	田窪健二	b	d	g
済生会西条病院	相澤淳一	a	c	d
西条中央病院	竹田治彦	b	c	d
愛媛十全医療学院附属病院	松田芳郎	a	f	i
	増田義久	b	d	e
	濱本雄一郎	b	c	d
	山下真二	b	g	i
松山赤十字病院リウマチセンター	水木伸一	c	e	f
南松山病院	坂山憲史	d	g	j
	亀井節也	b	c	j
市立宇和島病院	鶴岡裕昭	a	c	f
	藤田勝	b	d	i
興生総合病院	河野正明	b	c	d
JCHO 宇和島病院	渡部昌平	c	e	f
	富永康浩	c	d	e

	河野宗平	a	b	d
大洲記念病院	清水晃	b	e	g
	大西祥博	b	c	i
愛媛県立南宇和病院	辻浩司	b	c	d
愛媛県立今治病院	山本英広	b	c	d
HITO 病院	福田 高彦	a	c	d
愛媛県立新居浜病院	平岡千寛	c	d	i
愛媛医療センター	宮本良治	a	b	c
	玉井辰弥	d	e	g
市立大洲病院	堀内秀樹	a	d	f
周桑病院	奥田俊介	a	b	c
野村病院	守田人司	b	c	d
西予市民病院	光長栄治	a	c	d

a	脊椎	g	スポーツ
b	上肢・手	h	地域医療
c	下肢	i	小児
d	外傷	j	腫瘍
e	リウマチ	k	流動単位
f	リハビリテーション		

【愛媛大学週間及び月間予定表】

分野	指導医数	週間スケジュール				
		月	火	水	木	金
脊椎・脊髄	3	AM 外来 PM 総回診	AM 外来 PM 脊椎症例検討会	AM 外来 PM 脊髄造影検査	AM 手術 PM 手術	AM 手術 PM 手術
股関節	4	AM 外来 PM 総回診	AM 外来 PM 関節症例検討会	AM 外来 PM 造影検査など	AM 外来 PM 手術	AM 手術 PM 手術
膝・スポーツ	3	AM 外来 PM 総回診	AM 外来 PM 関節症例検討会	AM 手術 PM 手術	AM 外来 PM 外来	AM 手術 PM 手術
上肢・リウマチ	3	AM 外来 PM 総回診	AM 外来 PM 上肢例検討会	AM 外来 PM 手術	AM 外来 PM 外来	AM 筋電図 PM 手術
足・小児	2	AM 外来 PM 総回診	AM 外来 PM 外来	AM 外来 PM 外来	AM 手術 PM 外来	AM 外来 PM 外来
腫瘍	3	AM 外来 PM 総回診	AM 外来 PM 腫瘍例検討会	AM 手術 PM 手術	AM 外来 PM 外来	AM 外来 PM 外来
リハビリ	2	AM 外来 PM 総回診	AM 外来 PM リハ例検討会	AM リハ症例検討 運動療法指導	AM 外来 運動療法指導	AM 外来 運動療法指導
		月間スケジュール				
		月	火	水	木	金
第1週		整形カンファレンス 脊椎回診		膝関節カンファ	関節カンファレンス 脊椎カンファレンス 脊椎抄読会	脊椎回診
第2週		整形カンファレンス 脊椎回診 痛みカンファレンス	骨粗鬆カンファレンス	膝関節カンファ	関節カンファレンス 脊椎カンファレンス 脊椎抄読会	リサーチカンファ 股関節抄読会 脊椎回診
第3週		整形カンファレンス 脊椎回診 骨折治療抄読会		膝関節カンファ	関節カンファレンス 脊椎カンファレンス 脊椎抄読会	脊椎回診
第4週		整形カンファレンス 手外科抄読会 痛みカンファレンス		膝関節カンファ	関節カンファレンス 脊椎カンファレンス 脊椎抄読会	股関節抄読会 脊椎回診 股関節抄読会

	1年目前半	1年目後半	2年目前半	2年目後半
専攻医1	県立中央病院	県立中央病院	済生会西条病院	済生会西条病院
専攻医2	愛媛大学	愛媛大学	市立宇和島病院	市立宇和島病院
専攻医3	JCHO宇和島病院	JCHO宇和島	県立今治病院	県立今治病院
専攻医4	県立今治病院	県立今治病院	愛媛大学	愛媛大学
専攻医5	済生会松山病院	済生会松山病院	愛媛大学	愛媛大学
専攻医6	市立宇和島病院	市立宇和島病院	市立宇和島病院	西予市野村病院
専攻医7	南松山病院	南松山病院	愛媛大学	愛媛大学
専攻医8	興生総合病院	興生総合病院	興生総合病院	興生総合病院
	3年目前半	3年目後半	4年目前半	4年目後半
専攻医1	県立今治病院	県立今治病院	愛媛大学	愛媛大学
専攻医2	県立中央病院	県立中央病院	西条中央病院	西条中央病院
専攻医3	十全	十全	愛媛大学	愛媛大学
専攻医4	済生会松山病院	済生会松山病院	十全	十全
専攻医5	市立宇和島病院	市立宇和島病院	松山赤十字病院	松山赤十字病院
専攻医6	愛媛大学	愛媛大学	県立中央病院	県立中央病院
専攻医7	興生総合病院	興生総合病院	HITO病院	HITO病院
専攻医8	愛媛大学	愛媛大学	大洲記念病院	大洲記念病院
	取得単位			
	1年目	2年目	3年目	4年目
専攻医1	a6d3f3	b3c6d3	b3h3i1k5	e3g3i1j2
専攻医2	f3g3i2j2k2	a6d6	b6c3k3	c3e3h3
専攻医3	a3c3e3f3	b3d6h3	b3c3g3k3	a3i2j2k2
専攻医4	b3d6h3	a6e3i1j2	b3g3i1k5	c6f3
専攻医5	b6d3g3	a6e3i1j2	c6d3i1k2	f3h3k3
専攻医6	a6b6	c6f3h3	e3g3i2j2k2	d6k3
専攻医7	b6d3g3	a3e3i2j2k2	c3d3f3k3	a3c3h3
専攻医8	b6c6	d6f1k5	a6f2i2j2	e3g3h3
略号	十全:愛媛十全医療学院附属病院			

それぞれの施設の研修可能分野とローテーション表と専攻医毎の年次別単位取得計画、指導医と指導分野を下表に示します。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル（日本整形外科学会ホームページ参照）」に掲載されていますので参照して下さい。

6. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である愛媛大学附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。上記目的達成のために専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会（事務局を愛媛大学大学院医学系研究科整形外科学講座に設置）を置きます。

本研修プログラム群では、大学内に 1 名の整形外科専門研修プログラム統括責任者と数名の指導医によるプログラム運営委員を置き、大学外では研修連携施設指導管理責任者がプログラム管理委員会を形成します。

② 基幹施設の役割

基幹施設である愛媛大学附属病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

愛媛大学整形外科専門研修プログラム管理委員会は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を 1 回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を 5 年に 1 回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受け、各専攻医の研修進捗状況を把握・評価し、修了基準に不足している部分があれば追加の研修が行えるように、指導医に指導・助言し、さらに講習会を開催する等、有効な研修が行われるよう配慮します。
- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認められる

場合に、各研修施設の代表者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行います。

5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者は、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医

2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

1) 専門研修基幹施設である愛媛大学部附属病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。

2) 専門研修プログラムの管理・遂行・改善を行う。

3) 専攻医の採用・総括的評価及び修了判定につき最終責任を負う。

⑥ 労働環境、労働安全、勤務条件

愛媛大学附属病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・ 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・ 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・ 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・ 施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】各年次 6 名 合計 24 名

各施設の専攻医最大受入可能数は指導医数及び各施設の新患数及び手術数で定められている受入基準から下記のようになり、その各施設の受入可能専攻医数を基に群全体の受入数を各年次 6 名、合計 24 名と設定しました。

		新患数	手術件数
基幹施設	愛媛大学	1340	881
連携施設	愛媛県立中央病院	1757	1071
連携施設	済生会松山病院	2869	601
連携施設	済生会西条病院	1232	231
連携施設	西条中央病院	1621	233
連携施設	愛媛十全医療学院附属病院	763	419
連携施設	松山赤十字病院	755	83
連携施設	南松山病院	3242	988
連携施設	市立宇和島病院	2019	974
連携施設	興生総合病院	3592	1196
連携施設	JCHO 宇和島病院	4310	828
連携施設	大洲記念病院	2044	1040
連携施設	愛媛県立南宇和病院	973	115
連携施設	市立大洲病院	1162	227
連携施設	愛媛県立新居浜病院	1511	486
連携施設	愛媛医療センター	1591	265
連携施設	HITO 病院	816	540
連携施設	周桑病院	570	102
連携施設	野村病院	781	118
連携施設	愛媛県立今治病院	1651	618
連携施設	西予市民病院	1199	172

図：主な教育施設の年間新患数と手術件数（2019 年）

【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送で下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

愛媛大学整形外科専門研修特設ページ

<http://www.m.ehime-u.ac.jp/school/orthopedic/special/>

必要書類：① 申請書（ダウンロード）

② 履歴書（ダウンロード）

③ 医師免許証（コピー）

④健康診断書

【募集期間】10 月 1 日～12 月 25 日

【書類郵送先】

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

愛媛大学大学院医学系研究科整形外科学教室内
愛媛大学整形外科専門研修プログラム管理委員会

【問い合わせ先】

担当： 今井 浩 （研修プログラム事務局代表）

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

愛媛大学大学院医学系研究科整形外科学教室

Tel: 089-960-5343 Fax: 089-960-5346

orthop@m.ehime-u.ac.jp

【病院見学の申し込みについて】

愛媛大学附属病院は随時、病院見学を受け付けております。

下記ページから申し込みが可能です。

<http://www.m.ehime-u.ac.jp/hospital/kenshu/>

また、整形外科学講座にメールや電話で問い合わせいただいても対応できます。